

【発表抄録】

認知症の方の社会参加・就労について考えるフォーラム

2019年9月6日 テクノプラザ愛媛 テクノホールにて

事例紹介 「グループホーム土香里の挑戦！やってやれないことはない！」

グループホーム・土香里 井上真喜子

施設のおばあちゃん達はとにかくよく働く。掃除・洗濯・料理の下ごしらえ、なんでも手際よくこなす。時間もたっぷりとあるのにもったいない。認知症になったってできることはたくさんある。長年培ってきた知恵と技は私たちの何倍もある。

入居者に楽しみと生きがいを感じてもらいたい。スタッフにも楽しみとやりがいを感じてもらいたい。

介護職を始めた頃に

「あーまた朝が来てしもた。な~んにもすることがない。生きとるだけでみんなの迷惑になる・・・」

とつぶやいていたおばあちゃんの言葉が忘れられない。

【土香里の挑戦】

その1 「GBV30の誕生」

グループホーム入居者主体のボランティア団体を発足。

草引き・話し相手等のボランティア活動を行った。

その2 「社会資源の活用」

地域のサロンや小学校、カラオケ喫茶や料理教室への参加。

その3 「自由とお薬」

何でも自由にお薬も見直し、リスクを恐れすぎない。

【結果】

大幅に介護度が下がった入居者が続出！

- ・車椅子の方が自立歩行ができるようになった。
- ・BPSDがまったくなくなった。
- ・すべてが自立になり自宅へ帰った。
- ・スタッフの仕事が減ってストレスも解消。
- ・スタッフも入居者も笑顔が増えた。

グループホームなどの施設は、外部との関りがあまりない。ともすれば、受診以外は外に出ることがない！なんてことも多い。もっと自由に人生を楽しんで欲しい。スタッフも入居者もこの小さな世界だけにとどまらず、もっと広い世間と関わりを持つことが介護の質を上げることに繋がっていくのではないか。

土香里の外に飛び出してみよう。人の役に立ってもっともっと褒めてもらう。共通の話題のある仲間を作ろう。人のためになるって本当は自分のためってこと。忙しいってうれしいこと。もっともっともっと人生を楽しもう。あきらめるのはまだ早い！

まだまだよちよち歩きのGBV28だけれども迷っても転んでもいつかは胸を張って歩けるようになると信じて進んで行きたい。みなさんもご協力お願いします。